

6年1組 国語科学習指導案

場 所 6年1組教室

(T 1)

(T 2)

1 単元名 宮沢賢治の生き方から学ぼう

2 教材名 「イーハトーブの夢」「やまなし」「虔十公園林」「十力の金剛石」
「セロ弾きのゴーシュ」「グスコーブドリの伝記」等

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・宮沢賢治の生き方や作品の主題について進んで考え、教室の宮沢賢治コーナーや図書館などにある賢治の伝記や作品を進んで読み、自分の生き方について考えようとしている。

【読むこと】

- ・宮沢賢治の伝記「イーハトーブの夢」と、「虔十公園林」「十力の金剛石」など賢治の生き方が如実に表れた作品を複数読み、「人間を含めたすべての生き物の共存と幸せを願って行動した賢治の生き方」から自分を見つめ直し、自分の生き方について考えをもつことができる。

4 単元における主な言語活動

小学校学習指導要領解説 国語編のp91より

「読むこと」の言語活動例のア 伝記を読み、自分の生き方について考える言語活動
 取り上げられた人物の生き方や人生等を描いた伝記を読み、自分を見つめ直し、自分の生き方について考える言語活動である。
 伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめるようにすることが大切である。
 伝記には、人物の取り上げ方や書き手によって偉人伝や史伝などがある。いずれも、人物の生き方を描いているので、物語や詩のような行動や会話、心情などを基軸に物語る文学的な描写が用いられることが多い。それと同時に、人物の生き方や考え方、その偉業などを意味付けるといふ点から事実の記述や説明の表現が用いられる。(略)

5 本単元のねらいに関わる学級の児童の実態

(1)関心・意欲・態度 (○：できている □：課題である)

- 少人数加配教師によるブックトークや保護者の図書館ボランティアによる読み聞かせなどをきっかけに、大多数の児童は宮沢賢治の生き方や作品に興味をもつようになり、進んで賢治の伝記や作品を読む姿が見られるようになった。
- 単一作品だけではなく、複数の作品を比べて読むという意欲や態度については十分ではない児童もいる。

(2)読むこと (○：できている □：課題である)

- 6年生の1学期の単元「作品を読み、自分と対話しよう」では、重松清の短編「カレーライス」と「すねぼんさん」を読み、主人公の少年の置かれた状況と自分の生活する状況とを比べることができた。
- 「作品理解をする」という学習活動は数多く経験があるが、「伝記を読み、自分の生き方を考える」という経験は初めてである。

6 研究テーマに関わって

(1)学習のユニバーサルデザイン化

①掲示における情報の精選

- ・人物の人生を伝えようとするあまり、情報を詳細に伝えようとする、情報の大海の中に人物の生き方が埋まってしまう、人物の生き方が見えにくくなる場合がある。児童に情報を提示する場合は、重要な情報を精選しキーワード化して、教室や黒板に掲示・提示する。

②グループ交流の位置付け

- ・自分が読みたい作品を選んで読み深める場面で、グループ交流を位置付ける。

(2)協同的に学び合う学習集団の育成

①グループ交流の仕方の指導

- ・本単元では、作品別グループ交流を行う。よって、グループ交流の仕方の指導が重要となる。「話し合いの手引き」を作成し、活用させることで、司会者及び話し手・聞き手が協同的に学び合えるようにする。

(3) 言語活動の充実を目指した単元指導計画の在り方

①指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画（年間）

- ・1学期は、詩の授業などを通して、「自分の考えをもつこと」を重点的に指導してきた。その結果、「自分の考えをもつことができる児童」が増えてきた。その実態を踏まえて、本単元では、伝記を読み、自分の生き方について考える言語活動を行う。

②第3次を中心とした言語活動の充実（各単元）

- ・作品別グループ交流とシンポジウムを行い、その活動を充実させる。

③習得・活用のサイクルを生み出す系統的・発展的な単元構成（各単元）

- ・本単元は、「伝記を読み、自分の生き方を考える単元」である。そのため、単元の中心教材である伝記「イーハトーブの夢」と詩「雨ニモマケズ」で賢治の生き方を学び、その後、「賢治の生き方が象徴的に表れている作品を児童が選択して読む」という単元構成にした。教科書教材の「やまなし」については、「賢治の描く作品世界の特徴をとらえる教材」として、扱うこととした。

(4)協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

①児童が自分の願いをもち、学習を振り返る場の設定

- ・自分のめあての意識化と振り返りのために、授業の導入と終末でペア交流の場を設定する。

②言語活動の充実を目指した工夫改善

- ・本時行う言語活動は、「各作品の代表児童によるシンポジウム」である。
- ・本時扱う4つの作品は、伝記で描かれた賢治の生き方を象徴的に学ぶことができる作品である。「虔十公園林」と「十力の金剛石」からは植物と共存する生き方を、「セロ弾きのゴーシュ」からは動物と共存する生き方を、「グスコブドリの伝記」からは人間全体の幸福を求める生き方と自己犠牲の生き方を学ぶことができる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「虔十公園林」……………植物と共存する生き方 ・「十力の金剛石」……………植物と共存する生き方 ・「セロ弾きのゴーシュ」……………動物と共存する生き方 ・「グスコブドリの伝記」……………人間全体の幸福を求める生き方、自己犠牲の生き方 |
|--|

- ・上記の4作品の主題が収束する表現が、伝記「イーハトーブの夢」の「人間も動物も植物も、たがいに心が通じ合うような世界が、賢治の夢だった」という一節である。
- ・本時、各作品の代表児童によるシンポジウムを行うことで、4つの作品の主題が響き合い、賢治の生き方を端的に表した上記の一節を、より実感的に理解することができると考えた。
- ・本時は、少人数加配教員がT2として参加する。T1が全体の司会進行を、T2がシンポジストの発言を板書する。T2は国語の専門性を生かして必要に応じて問い返し、読みや表現を深める。

③協同的な学び合いを生み出す指導・援助の工夫

- ・指導・援助の工夫として、全体交流をする前に、グループ交流を位置付けた。安心して話せる少人数のグループ交流を位置付けることで、「熟考・評価型の発問」の「4つの作品で違うところ・同じところはどんなところか。」に対する考えを一人一人にもたせる。

(5)他の活動との関連

①3学期の卒業スピーチ（全校の場で）

- ・3学期の卒業スピーチでは、本単元で見つめ直した自分の生き方を踏まえ、スピーチする。

7 単元指導計画（全16時間）

時間	主な学習活動	指導・援助
1	①詩「雨ニモマケズ」を音読する。 ②本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 ③教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。 ④自分の生き方について書き、グループで交流する。	①導入では、賢治の生き方の象徴である詩「雨ニモマケズ」を音読する。 ②単元の導入段階から教室後ろに宮沢賢治コーナーを設置し、並行読書を促す。 ④自分の生き方を書いた短冊は、背面掲示に掲示する。
2・3	①本時の課題を確認する。 伝記「イーハートブの夢」を音読し、賢治が理想とする世界はどんな世界か、理想実現のためにどんな生き方をしたか、読み取ろう。 ②賢治の作品のブックトークを聞き、読む本を決める。	①文章全体を概観しながら拾い読みする摘読をさせるため、拾い読みの視点として「～と考えた。」「～と思って、～した。」「理想」「夢」「考え方」といったキーワードを板書する。 ②必読書と自由読書で計5冊以上は読むこととする。
4	①本時の課題を確認する。 「雨ニモマケズ」を暗唱し、賢治が願った生き方はどんな生き方か、読み取ろう。 ②「一人読み」の後、グループ及び全体交流をする。	①暗唱の習得度を確認するため、行数を書くように指示する。 ②「その行動から、どんな考え方が分かるか」「その行動や考え方は、どの作品とつながっているか」と発問する。
5・6・7	①本時の課題を確認する。 「やまなし」を読み、賢治の描く作品世界にはどんな特徴があるのか、読み取ろう。 ②「一人読み」の後、グループ及び全体交流をする。	①5時間目は6・7時間目の課題を生み出すと共に、作品の構成と表現の特徴（叙述レベル）を確かめる。6時間目は5月、7時間目は十二月を読み取る。
8・9・10	①本時の課題を確認する。 自分が選んだ作品を読み、作品の主題と自分の生き方について考えを深めよう。 ②自分が選んだ作品を読み、作品の主題を考える。 ③感想・疑問・話し合いたいことをグループ交流する。	①以下の必読書の中から選ぶ。 ・「虔十公園林」 ・「十力の金剛石」 ・「ゼロ弾きのゴーシュ」 ・「グスコブドリの伝記」 ②10時間目に、自分の生き方を再度振り返る時間をとる。
11・12	①本時の課題を確認する。 作品の主題と自分の生き方について考えを深めるために、作品別グループに分かれて話し合おう。 ②グループで交流する。	②T1とT2がグループに分かれて指導する。全作品共通の課題は「この作品で賢治はどんな生き方が大切だと伝えたかったのか」「賢治の生き方から学んだことを生かして、自分はどんな生き方がしたいか」である。
13 本時	①本時の課題を確認する。 シンポジウムを通して、賢治の生き方を学び、自分の生き方を見つめ直そう。 ②シンポジウムを行い、グループ及び全体交流をする。	②シンポジストは、「この作品で賢治が伝えたかった生き方」「賢治の生き方をふまえた自分の生き方」を発表する。 ②グループ交流を位置付け、一人一人が自分の考えをもてるようにする。
14・15	①本時の課題を確認する。 他の賢治の作品について班で話し合い、自分の考えを深めよう。 ②グループで交流する。	①単元の目標を踏まえ、賢治の生き方が象徴的に表れた作品を選ばせる。 例：「よだかの星」「銀河鉄道の夜」等 ②T1とT2がグループに分かれて指導する。
16	①本時の課題を確認する。 賢治の生き方から学んだことを生かし、自分の生き方を見つめ直し、今後の生き方を書きまとめよう。 ②各自で書きまとめた後、グループで交流する。	①四百字詰め原稿用紙1枚で書くことを条件とする。 ①作品名を明記することや表現の引用の仕方等を指導する。 ②交流では、推敲した後、内容について学び合う。

並行読書（必読書四冊・自由読書の合計五冊以上）

卒業スピーチ：自分の生き方について、全校の前でスピーチする（3学期・ランチルームにて）

8 本時のねらい

作品別グループの代表者であるシンポジストの発表を聞き、「人間がみんな人間らしい生き方ができる社会、人間も動物も植物もたがいに心が通い合う世界の実現」を目指した賢治の生き方から学び、各自が自分の生き方を見つめ直すことができる。

9 本時の展開（13／16）

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	① 本時の課題を確認する。 課題：シンポジウムを通して、賢治の生き方を学び、自分の生き方を見つめ直そう。 ② 今日の学習の進め方を確認する。 ③ 自分のめあてを確認し、ペアで交流する。 Aさん：「十力の金剛石」を読んだCさんの発表を聞いて、「虔十公園林」との共通点を見つける。	① 作品別グループの代表児童が前に並び、シンポジウム形式で学び合う。 ① T1が全体の司会進行をして、T2がシンポジストの発言を板書する。また、必要に応じて問い返す。 ② 学習の見通しが立てやすいように、「今日の学習の進め方」を掲示にして示す。
考える・広げる	④ 4人のシンポジストの発表を聞く。 「虔十公園林」 賢治の生き方 植物の大切さを知り、植物を守り育てる生き方 Bさんの生き方 自然の美しさを見つめる生き方 「十力の金剛石」 賢治の生き方 自然の尊さに気付く、大切に生きる生き方 Cさんの生き方 ありのままを大切に生きる生き方 「ゼロ弾きのゴシュ」 賢治の生き方 動物たちから音楽を学ぶ生き方 Dさんの生き方 小さな存在からも学ぶ生き方 「グスコブドリの伝記」 賢治の生き方 人々全員の幸せを願って、力を尽くす生き方 Eさんの生き方 仲間のために働く人になりたい。	④ シンポジストは、事前に作成してあった「発表用レジュメ」を配布する。 ④ シンポジストの主な発表内容は以下のとおり。 ・主な登場人物の説明・あらすじ ・「この作品で賢治はどんな生き方が大切だと伝えたかったのか」 ・「賢治の生き方から学び、自分はどんな生き方がしたいか」 ④ T2は「植物」「自然」「動物」「人間」「心が通い合う」といったキーワードのみ板書するように心がけ、「深めの課題」で各作品の相違点と共通点を見つけやすいようにする。
深める	⑤ 各自「深めの課題」に取り組む。 4つの作品で違うところ・同じところはどんなところか。 ⑥ 各自で考えを書きまとめる。 ⑦ グループ交流した後、全体交流する。^{しずく} Aさん：「虔十公園林」と「十力の金剛石」、どちらも雫が登場する。この小さな雫が自然の美しさを表していると思う。 「まとめ」 ～4つの作品に共通する賢治の生き方～ ・人間がみんな人間らしい生き方ができる社会にすること。 ・人間も動物も植物も、たがいに心が通い合う世界にすること。	⑤ 「熟考・評価型の発問」をして、自分の考えをもたせ、賢治の生き方に迫る。 ⑦ 相違点・共通点を考えさせた上で、「あなたはどんな生き方を学んだか」と問いかける。 ⑦ まとめに際して、全体交流で、賢治の伝記『イーハトーブの夢』の中に手がかりがある。どの表現か。」と発問する。
まとめる	⑧ 自分のめあてについて振り返り、ペアで交流する。 Aさん：めあてを意識したことで「十力の金剛石」と「虔十公園林」との共通点を見つけ出せた。私は日常の中の、小さなものから美しさを見つけ出せる生き方がしたい。	⑧ 自分のめあてを意識して取り組んだAさんを指名して、「Aさんは自分のめあてを意識して学習したから、自分の生き方を見つめ直せたね」とほめる。